

事業番号	15 08 15	事業改善シート (25年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	学校・家庭・地域全体で取り組む食育推進事業			担当課	部局	教育委員会事務局	
総合5か年計画	プロジェクト	4-1-1 健康づくり・医療充実プロジェクト		課・室	保健厚生課		
	施策の総合的展開	7-1 子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばす学校教育の充実 ◆豊かな心と健やかな身体の育成		E-mail	hokenko@pref.nagano.lg.jp		
				実施期間	H19 ~		

1 事業の概要

目指す姿	学校における食育の中核となる栄養教諭の配置を進めるとともに、研修等を実施して資質の向上を図る等食育の実践を支援することで、計画的な学校教育活動全体での食育を推進し、児童生徒の健全な食生活の実現を目指す。		
現状	○子どもたちの食生活の状況・毎日朝食を食べる児童生徒の割合(%) H23 小6 91.5% 中3 86.7% H24 小6 91.2% 中3 85.1% 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は増加傾向にあるものの、食事内容の脆弱さがみられる等、依然として改善が必要な状況にある。 ○学校における食育の推進・学校給食における地場産物の利用率(食材ベース) H22 38.8% H23 42.3%		
県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他)	【左記の説明、根拠法令等】 食育基本法、学校給食法、長野県食育推進計画 子どもたちへの食育は、本県の未来を担う人づくりに必要不可欠な事業であるため、県が主体的に取り組んでいく必要がある。 栄養教諭の配置拡充や研修は県でなければ実施不可。	
事業内容	① 成果目標(H25) ○毎日朝食を食べる児童生徒の割合 H29・小6で93.0%、中3で87.0%に改善。H25は現状より高い割合に改善。		
	② 事業内容 (単位:千円)		
	項目	実施方法	H25事業実績
			H25 (当初) H25 (決算) H26 (当初)
	栄養教諭に対する研修の実施	直接	・1、2年目研修(年3回)実施 ・国主催研修会2名派遣、全国大会2名派遣 409 494 905
	児童生徒の食に関する実態調査	直接	・県内の小学5年生、中学2年生および教職員に対し調査を実施(7月) ・調査結果の分析、課題把握のための検討委員会を3回実施 165 64 444
			合計 574 558 1,349

事業コスト	区分(単位:千円)	23年度	24年度	25年度	26年度
	前年度繰越				
	当初予算	675	734	574	1,349
	補正予算				
	合計(A)	675	734	574	1,349
	国庫支出金				
	県債				
	その他()				
	一般財源	675	734	574	1,349
	決算額(B)	601	733	558	
概算職員数(人)	0.25	0.25	0.30	0.30	
概算人件費(C)	2,065	2,065	2,477	2,477	
概算事業費(B(A)+C)	2,666	2,798	3,035	3,826	

成果目標の達成状況					
項目	H24末(実績)	H25			H26目標
		目標	成果	達成状況	
毎日朝食を食べる児童生徒の割合	小6 91.2% 中3 85.1%	小6 91.5% 中3 85.4%	小6 91.1% 中3 86.4%	未達成	小6 91.9% 中3 85.8%

目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日朝食を食べる児童生徒の割合」は、平成18年度の調査に比べ小6で5.6%、中3で3.8%増加したが、約1割の児童生徒は依然として朝食を食べない日がある。 早寝・早起きの児童生徒は朝食の欠食が少ないことから、子どもだけでなく、保護者も含め、生活のリズムを整えることや朝食をしっかり食べることの重要性の啓発により一層取り組んでいく必要がある。 H25の目標値については、県総合5か年計画の目安値の設定に伴い変更した。(変更前:「現状より高い割合にする」)
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 子どもたちの食生活は依然として改善が必要な状況にあるため、今後もより多くの児童生徒が栄養教諭の専門性を活かした食に関する指導を受けられるよう、引き続き栄養教諭の配置を進めるとともに研修等を実施して資質の向上を図るなど、学校教育活動全体での食育を推進していく。
--------------------	--